

地域の宝物

裳階



前回紹介した本校の「探究」学習の授業中、担当の先生が、修学旅行先である沖縄と地元取手市の建物（文化財建造物）の違いを問いかけてくれた話題について触れました。

県の教育委員会に勤務していた頃、文化財建造物の担当となり、取手市には何回も足を運んだ経験があります（[取手市の埋蔵文化財センター](#)の職員の方には大変お世話になりました）。そこで、今回は地元取手の文化財建造物を紹介します。

上の写真は、市内米ノ井（関東鉄道常総線ゆめみ野駅の近くですが、周囲の道路はかなり狭いので要注意です）に所在する、取手市唯一の国指定重要文化財「**竜禅寺三仏堂**」です。細かな解説等は、上記埋蔵文化財センターによる[説明ページ](#)をご覧ください。

最初に訪れたときの印象は、屋根のボリュームに比してそれを支える躯体部分が非常に脆弱に見える、何とも言えないアンバランスさでした。左右と背面に**裳階（もこし）**と呼ばれる構造物が付随していることも独特な形式です。少なくとも、沖縄にこのような建造物があるという情報は聞いたことがありません。

建造物を含む県内の文化財については、県教育委員会のHP「[いばらきの文化財](#)」が大変参考になります（取手市には、“さざえ堂”で有名な「長禅寺三世堂」のほか2件の県指定文化財建造物も所在します）。2011年の東日本大震災では、県内の文化財は大きな被害を受けました。文化財は被災した場合には現状復元が原則で、よほどのことがないと指定解除にはなりません。

現在は、大手ゼネコンが文化財建造物の修理等も手がけるようになってきました。ゆくゆくは、「地域の宝物」であるこのような文化財建造物の維持・保存等に、本校「探究」学習を基盤とした主体的な学びを積み重ね、大きく成長した生徒の皆さんの活躍にも期待したいと思います。